

「春の祭典」作品研究 (パリ初演1913年5月29日)

堀 文雄

ディアギレフのロシア・バレエ団が初演した「春の祭典」の芸術的本質は、ストラヴィンスキーの音楽とレーリッヒの美術とニジンスキーの振付が融合したものと考えられる。その融合の根底にあるものは、ロシア・フォーク・アートを手がかりにし、ロシアの過去に想いをはせることによって、そこから湧き出てくるプリミティヴなエネルギーだと考える。そのエネルギーを昇化する方法を、音楽家、美術家そして振付家は、各々に悩み、考え、当時の芸術思潮の流れと共にみい出してゆくのである。この方法をプリミティヴィズムと呼ぶ。プリミティヴィズムとは、原始的であろうとすることであり、プリミティヴ(原始)そのものではない。ゆえに探求者の性格によって変化する……(ゴールド・ウォータの定義による)。

「春の祭典」の構想は、ストラヴィンスキーが「火の鳥」の最後の頁を書き終えようとしたとき浮んだといわれる。それは異教の儀式で、賢者の老人達が隅に腰をおろし、春の神の恩寵を得るために生贄にきめられた一人の乙女が死を賜る踊りをじっとみているといったものだった。古代ロシア美術、石器時代の文化に精通していたレーリッヒの協力のもとで、台本がつけられた。

「芸術の世界」派の画家であったレーリッヒのデコールは、古代人の美と調和を今に復活させるというプリミティヴな美意識のもとで描かれた。それは装飾的で、平面性が強調され、古代ロシアの大地が象徴的、神秘的にとらえられている。

一方、ストラヴィンスキーの音楽は、古代ロシアの新生をとげる大地の春の胎動を今によびもどすというプリミティヴな意識のもとで作曲された。ドビッツシーが和音、又シェーンベルクが旋律に音楽のより深い本質をみい出したように、ストラヴィンスキーはリズムにそれを求めた。その作曲方法は、ブレーズによれば、有機的発展・展開はなく、反復であり、いわば物理的混合といえ、絵画的方法によるものだった。この方法はピカソの分析的キュービズムの生命感ある線のリズムを想起させるに充分である。

こうした新しい芸術思潮の中で曲とデコールはつくられたが、一方ニジンスキーの振付は如何なるものであったろうか。

複雑なリズムが前面に押し出されたストラヴィンスキーの音楽の解釈を助けるために、ダルクローズの弟子ランバートが呼ばれた。ニジンスキーは音楽のすべての音符のためのバを実際にみつけることをまず

考えた。そして具体的には、レーリッヒが集めた考古学的資料の中の原始時代のスラブ人が、自分の身体をよじったり、膝をアン・ドゥダンにしたり、腕を裏返しにねじったり……の姿からヒントを得て——それを今に具現しようとするプリミティヴな意識のもとで振付された。ここではクラシック・ダンスは完全に否定され、そこにあるのは内また、曲った背中、硬直した手足、幾向学的ライン、気違いじみた震え、ねじれた上体、突然の振り向き、無表情な顔、恍惚的ポーズ……である。又ここでの跳躍はコントロールをきかせて羽根のように舞いおりることを理想としたクラシック・ダンスのそれとはまるで逆で、体全体の体重をもってして落ちるのであり、大地へと向う跳躍であった。すなわち、それらは今までの絶対なる美意識に対する認識の転換の完全な要求であり、古典美の完全な崩壊であった。が、しかしそこにはフォークン流の美の整列といったものではなく、いわば不均衡の美といったものが存在した。それはストラヴィンスキーの音楽のもつリズムの不均衡さに呼応した、古代スラブ人の生命のリズムの美しさであろうか。これを成し遂げるために、ニジンスキーはダルクローズの造形の概念を登場人物個々にだけでなく、群舞の動きにもその概念を応用した。すなわち群舞をグループに分け、対位法的に動かす等、互いに独立させてマスを動かした。又各個人も精神と肉体が分離しておらず、運命を自然にうけいれてしまう存在そのものとして振付た。その中で身振りが大きな役割を果している。——①原始的な種類の純粋に祭祀的動き。(例、大地の上をとびはねたり、太陽に向ったり……)②模倣的、あるいは現実的な身振り。(老予言者の入場に際し、全てのダンサーが恐怖で身震いする。……)——「春の祭典」の主役は古代スラブの群衆そのものであり、舞台上では各ダンサーであり、群舞である。そのテーマは現代の我々とも切り離せないものである。

近代絵画の歴史が絶対的古典美に対する懐疑から出発し、その歴史はその解体作業となったのと同様に、舞踊の世界ではニジンスキーによって、ダンカンから出発したその解体作業の一つの頂点を、「春の祭典」によって成し遂げたといえよう。

以上三者三様のプリミティヴィズムが重り合った総合として「春の祭典」は存在する。そして、今までの考察より当時充分に芸術思潮の最先端をゆくものだったことは明確であろう。「春の祭典」に、古代ロシアの神秘的コスモスをかいまみる時、それは現代の我々をも震撼させうる一つの祭儀となりうるだろう。